

平成30年4月27日

記者配布資料

大阪経済記者クラブ会員各位

(同時資料配布：金沢・富山・福井・京都・神戸の各経済記者クラブ、大津市政記者クラブ)

「北陸・関西連携会議」会頭会合の開催について

【お問合せ先】大阪商工会議所 地域振興部 (宇都宮・高田・松井)

TEL：06-6944-6323

当 日：090-3030-2216

- 金沢・富山・福井・京都・神戸・大津・大阪の7商工会議所は、「北陸・関西連携会議」の会頭会合を5月9日（水）に大阪（ホテルグランヴィア大阪）で開催する。
- 本会議は、北陸新幹線の開業に際して、京都・神戸・大阪の3商工会議所から働きかけて平成27年7月に設置。北陸・関西の一層の連携強化や、北陸新幹線の早期整備に向け、意見交換や共同提言等を行ってきた。
- 会頭会合は、今回が6回目。【第1回：金沢（平成27年9月2日）、第2回：福井（12月21日）、第3回：神戸（平成28年4月25日）、第4回：富山（10月24日）、第5回：京都（平成29年5月30日）】
- 当日は、「北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた共同アピール」を決議する予定。

※「北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた共同アピール」は、決議後（13：10以降）、会場および各地の記者クラブにて配布。

<開催概要>

【日 時】 平成30年5月9日（水）12：50～14：30

【場 所】 ホテルグランヴィア大阪20階「名庭の間」（大阪市北区梅田3丁目1番1号）

【内 容】 (1)開会挨拶 大阪商工会議所 会頭 尾崎 裕

(2)北陸・関西連携事業の進捗報告

(3)規約の制定と代表幹事の選任について

(4)北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた共同アピールについて

(5)講演「北陸新幹線の整備状況と大阪延伸に向けた課題（仮題）」

国土交通審議官 田端 浩 氏

(6)自由懇談

(7)その他

取材可能
約20分間

非公開

<取材要領>

○(1)開会挨拶から(4)共同アピール（12：50～13：10）までが取材（ペン、カメラ撮り）が可能です。

○12：20にホテルグランヴィア大阪20階「名庭の間」で受付を行います。

○取材に当たっては各社の腕章をご用意ください。

以 上

<添付資料> ①「北陸・関西連携会議」会頭会合 出席予定者名簿

②「北陸・関西連携会議」の概要

北陸・関西連携会議 第6回会頭会合 出席予定者名簿

(敬称略・順不同)

(講師)

国土交通省 国土交通審議官 田端 浩

(メンバー)

金沢商工会議所 会 頭 安宅 建樹 (株式会社北國銀行取締役頭取)

専務理事 宮本 外紀

富山商工会議所 会 頭 高木 繁雄 (株式会社北陸銀行特別参与)

専務理事 西岡 秀次

福井商工会議所 会 頭 川田 達男 (セーレン株式会社
代表取締役会長兼最高経営責任者)

専務理事 宮崎 和彦

京都商工会議所 会 頭 立石 義雄 (オムロン株式会社名誉会長)

専務理事代行 児島 宏尚

神戸商工会議所 副 会 頭 森地 高文 (株式会社神戸製鋼所顧問、
神鋼商事株式会社代表取締役社長)

専務理事 中林 志郎

大津商工会議所 会 頭 大道 良夫 (株式会社滋賀銀行取締役会長)

専務理事 谷口 孝男

大阪商工会議所 会 頭 尾崎 裕 (大阪ガス株式会社代表取締役会長)

専務理事 宮城 勉

以 上

平成30年5月

「北陸・関西連携会議」概要**1. 設立趣旨**

- 北陸と関西は、豊富な地域資源を有し、人的交流も盛んである。しかし、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催、リニア中央新幹線の東京―名古屋間先行着工、北陸新幹線の金沢延伸といった動きを踏まえれば、今、北陸・関西両地域が連携し、観光客増大やビジネス交流の促進に取り組むことは、地方創生の模範例を示すことになる。
- そこで、北陸・関西の商工会議所が連携して、観光振興はもとより、幅広いビジネス交流事業を実施するとともに、そのために必要な北陸新幹線の大阪延伸の早期実現策等を検討し、必要に応じて、共同提言の取りまとめ等を行う。

2. 設置日

平成27年7月17日

3. 組織概要

- 金沢・富山・福井・京都・神戸・大津・大阪の7商工会議所
 - ※大津商工会議所は、平成27年12月の第2回会合から参加
 - 事務局：大阪商工会議所
 - 必要に応じ、両地域の他の商工会議所にも呼び掛ける
- 会頭による会合を開催し、北陸・関西の連携を促進する。
- 専務理事による会合を開催し、必要事項を決定する。
- 各種連携事業を具体化する際には、事務局担当者による会合を適宜開催する。
- 必要に応じ、西日本旅客鉄道株式会社の「関西・北陸交流会」とも連携する。

4. 開催実績

平成27年	7月17日	発足
	9月 2日	会頭会合（第1回：金沢）
	9月16日	専務理事会合
	11月19日	専務理事会合
	12月21日	会頭会合（第2回：福井）
平成28年	2月18日	専務理事会合
	4月25日	会頭会合（第3回：神戸）
	10月24日	会頭会合（第4回：富山）
平成29年	5月30日	会頭会合（第5回：京都）
	12月13日	専務理事会合
平成30年	4月18日	専務理事会合
	5月 9日	会頭会合（第6回：大阪）（予定）

5. 申し合わせ（第1回会頭会合〔平成27年9月2日〕にて採択）

北陸・関西の一層の連携強化に向けた申し合わせ ～北陸・関西は地方創生の先導役に～

地方創生が大きな政策課題となる中、我々6商工会議所会頭は、本日の「北陸・関西連携会議」において、両地域一体となった力強い成長実現に向け、一層緊密に連携することで合意した。

まずは、下記の観光振興、インフラ整備、ビジネス交流事業に精力的に取り組んでいくことを申し合わせる。

記

1. 国内外からの観光客増大を一過性に終わらせることなく、さらに北陸・関西への誘客を図るため、広域観光周遊ルートの形成など多様な観光魅力の発掘や相互プロモーションを強化する。
2. 北陸・関西の成長力を高める重要な基幹インフラである北陸新幹線に関し、国や地方自治体等と連携しながら大阪延伸の早期実現を図る。
3. 地方創生の担い手である中小企業の販路開拓、新商品・サービスの開発など、業容拡大を強力にバックアップする。このため、域内企業間のビジネスマッチングに注力する。
4. 市場規模の拡大が期待される新しい産業分野への円滑な参入など、中小企業の成長力強化に向けた支援策を拡充する。このため、各種情報提供に一層力を入れるとともに、域内の企業間連携をサポートする。

以 上

6. 共同アピール（第5回会頭会合〔平成29年5月30日〕にて採択）

北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた共同アピール

金沢・富山・福井・京都・神戸・大津・大阪の7商工会議所は、北陸地方と関西圏との経済交流を推進するため、会議所会頭による「北陸・関西連携会議」を設置し、ビジネス交流や事業相互参加を積み重ねている。

こうした相互交流をさらに進めていくうえで、両地域の時間距離を大幅に短縮する北陸新幹線への期待は極めて大きく、今般、全区間のルートが確定したことで、早期全線開業を求める機運が一段と高まってきた。

また、南海トラフ地震、首都直下型地震に近い将来発生するといわれているなか、首都圏と関西圏を結ぶリダンダンシーの整備は喫緊の課題であり、国土強靱化の観点からも北陸新幹線の優先的な整備が求められる。

しかしながら、現在想定されている2046年度完成（敦賀～大阪までのルート選定のための国土交通省による試算で前提とされた工期）は、あまりにも遅く、北陸新幹線の開業効果が低減するとともに、東京一極集中が長期にわたり進むことが懸念される。

北陸新幹線の効果を最大限に生かすには、2022年度末までに金沢～敦賀間の開業を確実に実現するとともに、リニア中央新幹線やなにわ筋線の開通、うめきた（梅田北ヤード）の整備など各種プロジェクトに先行して、大阪までの全線開業させることが必要である。ここに、7商工会議所の総意として、以下の通りアピールを決議する。

記

1. 早期全線開業の実現

2035～2040年には、関西の生産年齢人口が1000万人を割るとの推計があるなか、北陸新幹線全線開業による効果を早期に実現し、北陸地方と関西圏の経済交流を拡大していく必要がある。そのためには、2022年度の敦賀開業を待たず、敦賀以西の工事に着工し、リニア中央新幹線やなにわ筋線に先行して、2030年度を目標に大阪までの全線開業を実現すること。

2. 財源確保および着工に向けた環境整備

早期全線開業を実現するために必要な財源を措置すること。また、早期着工に向け、速やかにルートの詳細を固め、環境アセスメントや自治体の同意など着工に必要な環境整備を進めること。

平成29年5月30日

北 陸 ・ 関 西 連 携 会 議

金沢商工会議所	会頭	安 宅 建 樹
富山商工会議所	会頭	高 木 繁 雄
福井商工会議所	会頭	川 田 達 男
京都商工会議所	会頭	立 石 義 雄
神戸商工会議所	会頭	家 次 恒
大津商工会議所	会頭	大 道 良 夫
大阪商工会議所	会頭	尾 崎 裕